

サトウ サンの 世界

四コマで切り取る昭和

2014 MONDAY SATURDAY
5.26 — 8.9

THE WORLD OF SATO SANPEI

会場 京都工芸繊維大学美術工芸資料館

会 期 2014年5月26日(月) — 8月9日(土)
開館時間 10時—17時(入館は16時30分まで)
休 館 日 日曜・祝日 ただし6月8日(日)は開館します。
お問合せ 京都工芸繊維大学美術工芸資料館
TEL 075-724-7924 <http://www.museum.kit.ac.jp/>

主催：京都工芸繊維大学美術工芸資料館 後援：朝日新聞社
京都・大学ミュージアム連携
University Museum Association of Kyoto

サトウサンペイの世界

四コマで切り取る昭和

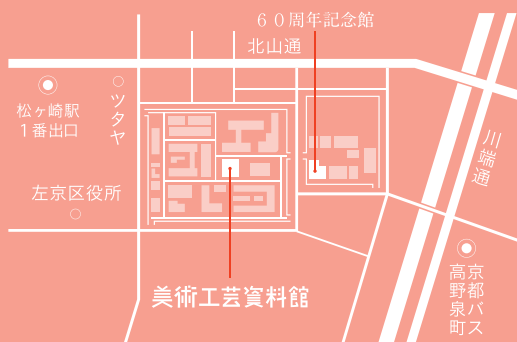
ある年齢以上の方は、朝日新聞の四コマとサトウサンペイの「フジ三太郎」という印象をお持ちなのではないでしょうか。昭和時代の前半の典型的な家族である磯野家を舞台として、「フジ三太郎」は、それよりも一世若いフジ家が舞台となっています。万年ヒラのサラリーマンであるフジ三太郎は、会社と家庭での「活躍」が主題であり、「フジ三太郎」は社会派マンガと家庭マンガの両方の要素を兼ね備えた新聞マンガとして、26年半の間、朝日新聞の紙面から読者を楽しませてくれました。

その「フジ三太郎」の作者であるサトウサンペイ氏は、1928年生まれ。大阪で育ち、旧制生野中学校（現在の大阪府立生野高等学校）を卒業後、京都工芸繊維大学の前身である京都工業専門学校に入学しました。卒業後、大丸（現在の丸の内百貨店）に入社し、同社の宣伝部に勤めながら四コマ漫画を手がけるようになり、1957年から大阪新聞に「大阪の息子」の連載をはじめ、漫画家としてのデビューを果たしました。朝日新聞の「フジ三太郎」の跡を継いで朝刊へと場を移しました。当初は夕刊で、1979年からは「サザエさん」の連載をはじめ、途中のわずかな中断があるものの1991年9月30日まで26年と半年のあいだ続き、その数は8168回に及んでいます。「フジ三太郎」のほか、「タ日くん」「アサカゼ君」などが代表作として知られており、1966年に文藝春秋漫画賞受賞。1991年には都民栄誉賞、1997年には紫綬褒章を受章。現在84歳、きわめてお元気です。

京都工芸繊維大学美術工芸資料館では、サトウサンペイ氏の半世紀以上にわたる作家生活を振り返り、なかでも代表作である「フジ三太郎」を中心にした展覧会を開催いたします。展覧会では、昭和という時代をサトウサンペイ氏の視点で、つまりフジ三太郎の視点で捉え直してみたいと思っております。と風刺、そして、茶目っ気とお色気にあふれたサトウサンペイの世界をお楽しみください。

関連企画：サトウサンペイ記念講演会
「ユーモアとウィットと風刺」

2014年6月8日(日) 15:00～17:30(開場14:30)
サトウサンペイ先生の講演後、対談：サトウサンペイ×
高山正雄(京都工芸繊維大学学長)をおこないます。
場所：京都工芸繊維大学60周年記念館
申込不要 入場無料 先着順



○ JR京都駅、阪急烏丸駅、市営地下鉄烏丸御池駅から市営地下鉄烏丸線 国際会館行に乗車、松ヶ崎駅下車、徒歩8分（松ヶ崎駅の出口1から右（東）へ約400m、4つ目の信号を右（南）へ約180m）
○ 京阪出町柳駅5番出口から、京都バス大原行、岩倉実相院行、岩倉村松行に乗車、高野泉町下車、橋を渡り川沿いに左へ約200m、コインパーキングの角を右へ約200m



京都工芸繊維大学
美術工芸資料館
MUSEUM AND ARCHIVES